

飯田保健所における結核対策の取り組み

白上むつみ、宮島里美、三石聖子、小倉奈緒、伊藤実緒、稲葉早紀、

北澤卓也、西澤志帆、安川照人、佐々木隆一郎（飯田保健所）

キーワード：高齢者の結核、感染症診査協議会、医師会、ソーシャルキャピタル

要旨：飯田保健所管内では、高齢者施設を利用している高齢者の結核が増えている。感染症診査協議会が中心となり、医師会と連携して取り組みを行ってきた結果、施設内結核蔓延予防のため、高齢者施設入所時の健康診断項目に結核検診の推奨を呼びかけられることとなった。本報告ではこの取り組みについて紹介する。

A. 目的

飯田保健所では、地域における結核対策として、感染症診査協議会が中心となり医師会と連携して取り組みを行ってきた。その結果、高齢者施設入所時の健康診断項目に結核検診の推奨が呼びかけられることとなった。この取り組みの経過と保健所の役割について検討する。

B. 管内の状況

飯田保健所管内は、県内では結核罹患率の高い地域ではないが、平成10年ころから罹患率は横ばい状態にある（図1）。この理由の一つとして高齢者の結核が多いことが考えられる。

特に80才以上の高齢者の新規登録が多く、24年は過去最高の11人だった（図2）。

表1に、80歳以上の高齢者の多かった21年（10人）と24年（11人）の高齢者の状況を比較した。

80歳以上の者の施設利用状況をみると、21年は施設利用者が2人だったが、24年は4人と多かった。

高齢者の結核は、早期に典型的な症状が出にくいという特徴がある。24年の新規登録者のうち80歳以上の者の診断時の症状をみると、有症者9人の症状は、発熱のみ3人、食欲不振・体重減少4人、咳嗽、喀痰2人と、典型的な症状を示す者は少なかった。

24年の80歳以上の者の初診から診断までの期間をみると、1か月以上かかった人は、5人（45%）だった。

C. 取り組みの経過

(1) 感染症診査協議会での取り組み

DOTSを開始した平成17年から、感染症診査協議会に併せて、毎月コホート検討会を開催している。個別のケースについて、必要に応じて報告し、助言をもらっている。

(2) 飯田医師会報を通じた啓発

平成19年から、コホート検討会で課題になり検討した結果は、医師会の会員である感染症診査協議会委

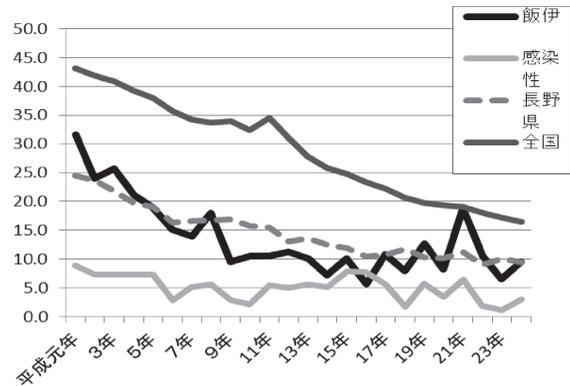


図1 結核罹患率の推移

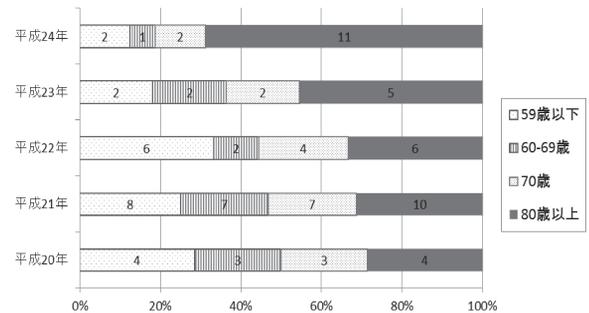


図2 年代別新規登録者の推移

表1 平成21年と24年の80歳以上の患者の比較

高齢者施設等利用者数（人）	平成21年	平成24年
デイサービス	2	2
特別養護老人ホーム	0	2
ヘルパー	0	1
合計	2	5

員を通じて、飯田医師会報に掲載をいただいている。今までに掲載された主な内容は表2のとおりである。

表2 飯田医師会報の主な掲載内容

年度	内 容
19	以前より改善しているが、診断の遅れが全国より多いので注意を。
20	若くて結核にかかる人の中に、糖尿病、高血糖、外国籍の人が多かったので注意を。
21	21年は結核の新発生が多かったが、QFT検査導入の影響が考えられる。
22	QFT検査を診断根拠としているものも多いが、転症事例もあったので注意を。
23	後 述
24	高齢者の結核が多いが、住民健診の受診率が下がっているので健診受診を。

(3) 事例の発生

H23年、80歳以上で喀痰塗抹陽性肺結核患者が2人発見された。この2人は、複数の高齢者施設（介護老人保健施設、高齢者専用住宅、特別養護老人ホーム、宅老所）とその関連の医療機関を利用していたが、胸部エックス線検査を受けておらず、症状が出てから診断されるまでにそれぞれ4か月と1年かかっていた。その結果、接触者健診の対象者は、施設、関連医療機関の利用者、職員等多数となった。健診の結果、潜在性結核感染症患者がそれぞれ7人と6人発見された。

これらの事例を感染症診査協議会で検討した結果、発見が遅れ感染が拡大した要因として以下が考えられた。

- ① 施設を複数利用しているにも関わらず、胸部エックス線検査の機会がなかった。
- ② 高齢を理由に受診しなかった。
- ③ 呼吸器症状が目立たず、他症状の受診のため、結核に結び付きにくかった。

医師会報には「多くの高齢者が、さまざまな施設を利用し、病状が悪化したときは系列の病院に入院して、施設を渡り歩く現状がある。これらの施設に開放性結核が発生すると、施設職員に潜在性結核感染症が増えるという構図が垣間見られる。社会福祉施設、その関連病院、往診を担当する医院で結核対策を改めて見直す必要があると考えられた。」と掲載し、注意が促された。

(4) 飯田医師会としての対応

平成24年12月に開かれた飯田医師会の在宅医療・介護保険対策委員会及び、老人保健施設用診断書に関する協議会において、入所用健康診断には、施設内結

核蔓延予防のため胸部X線検査は必要であるとの結論が出された。

これに基づき、老人保健施設と特別養護老人ホームの入所用診断書の改訂がなされ、胸部エックス線検査の所見の欄が盛り込まれ、1年以内の胸部エックス線検査結果の記入を求められることになった。

このことについて、医師会から、施設、市町村に周知がなされた。

D. 考察

保健所から、感染症診査協議会への情報提供を契機に検討協議された課題が、診査協議会委員を通じて、飯田医師会の会報に学術論文として掲載され、医師会会員に広く周知されている。平成19年度から毎年掲載された結果、医師会内の高齢者に関わる複数の委員会において、結核の早期発見を目的として、高齢者施設入所時の健康診断項目に結核検診の必要性が認知されることとなった。

保健所の力は非力でも、結核対策の必要性を訴え続けていくことで、関係機関や住民との協調行動につながり、ひいては地域保健活動の効率を高めることとなった。

この一連の流れは、地域保健におけるソーシャルキャピタルそのものであると考えられた。

終わりにになりましたが、日ごろ、ご指導いただいている感染症診査協議会の久田俊和先生、尾地優先生、市橋浩司先生、塚平晃弘先生、小松光代先生、申原喜代子先生、飯田医師会の市瀬武彦会長はじめ医師会会員の皆様に深謝します。